

感動プレイバックTV100



経済学部長
小口 好昭
こぐら よしあき

また沢山ありました。当然ですが、想い出の人たちの、なんと若々しくて生き生きしていたことか。自分のことは棚に上げて、誰々はずいぶんしわが増えたね等と、ワイフとお茶談義に花を咲かせました。

そんなに古く遡らなくても、原田や舟木のジャンプ、サッカークのカズや中田、そして田中耕一さんにも感動です。時代を切り開く若さ。若さは、それだけで長所であり、すばらしいものです。きつと50年後には「感動プレイバックTV100」が放映されるでしょう。その時、皆さんは、自分たちが生き生きと輝いていた時代を見ることができるはずですよ。

最近、辛さがあつてこそ楽しさがある、両者は表裏一体だ等と、少々悟っています。第九のテーマが「苦悩を貫き歓喜に至る」と言うらしいことを知って好きになりました。やはり、教訓めいた結論に至りました。皆さんが、苦悩と歓喜にあふれる、波乱に富む人生を送られることを、心から願っています。

皆さん、ご卒業おめでとーございませう。ご父母の皆様にも、心からお祝い申し上げます。中央大学そして経済学部での生活が、実りある有意義な学生生活だったことを願っております。

先日、『テレビ50年―あの日あの時、そして未来へ―』という本を買いました。それによると、1953年(昭和28年)2月1日午後2時、異様なほどの緊張感の中で本放送がスタートし、今年がテレビ放映開始50周年に当たるそうです。当時、大卒の初任給が八千円程度なのに、テレビは国産十四インチで十七―八万円もしていたとか。私は、村で一番にテレビを買った大百姓の家で、正座にかしこまって力道山の空手チョップを見せてもらいました。

2月に、NHK「感動プレイバックTV50」を見ました。悲惨な出来事が沢山ありましたが、感動場面も